

石油製品の価格動向について

平成19年1月17日
生活環境部
総務企画グループ

1 石油製品の価格動向調査の結果

県内の石油製品4品目について、1月9～15日に価格動向調査を実施しましたが、その結果については以下のとおりです（非定店調査）。

（単位：円、消費税込み）

品目名	規格・容量	店舗形態	前月調査の 平均価格	1月調査の 平均価格	対前月比 (%)
ガソリン	レギュラー1ℓ、店頭現金売り	一般店舗	135	132	▲2.2
		セルフ	131	128	▲2.3
軽油	個人消費向け1ℓ、店頭現金売り	一般店舗	114	111	▲2.6
		セルフ	109	108	▲0.9
灯油	店頭価格、18ℓ	一般店舗	1,329	1,313	▲1.2
		セルフ	1,279	1,246	▲2.6
	配達価格、18ℓ	一般店舗	1,446	1,427	▲1.3
LPガス	一般家庭用、10m ³	一般店舗	6,529	6,598	1.1

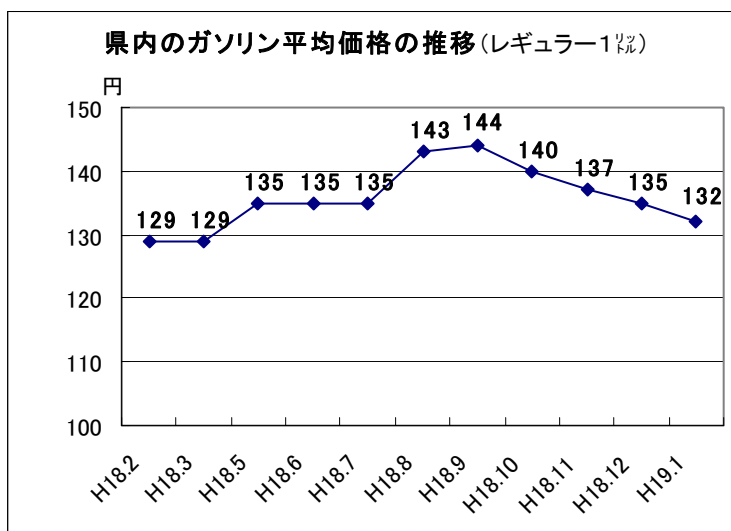
◎ 全ての品目において小売価格が値下がりした前月の調査結果と比較すると、1月は、元売各社が卸売価格を引き上げたにもかかわらず、給油所間の厳しい価格競争、暖冬の影響による需要の低迷などにより、ガソリン、軽油、灯油の小売価格はさらに値下がりし、また、LPガスは横ばいとなった。

1月に入り、国際的な原油価格は大幅に下落しており、2月の卸売価格が引き下げられること可能性が高いことから、小売価格もさらに値下がりすることが予想されるが、産油国に減産の意向があり、原油価格が再び上昇するとの見通しもあることから、今後も引き続き石油製品の価格の推移を注視していく必要がある。

2 県内の石油製品価格の推移

(1) ガソリン価格

※ 一般店舗価格

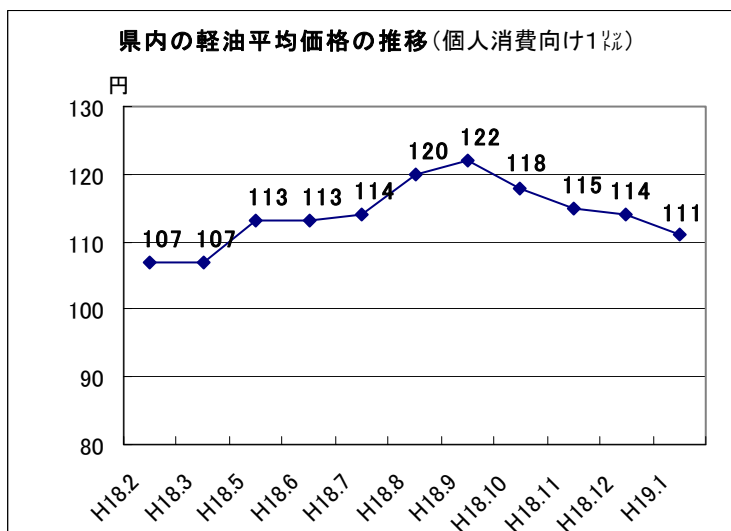


◎ 12月調査結果と比較すると、1月は3円値下がりし、元売各社が卸売価格を引き上げたにもかかわらず、給油所間の厳しい価格競争などにより、4ヶ月連続の値下がりとなった。

1月に入り、国際的な原油価格は大幅に下落しており、2月の卸売価格が引き下げられること可能性が高いことから、小売価格もさらに値下がりすることが予想されるが、産油国に減産の意向があり、原油価格が再び上昇するとの見通しもあることから、今後も引き続き石油製品の価格の推移を注視していく必要がある。

(2) 軽油価格

※ 一般店舗価格

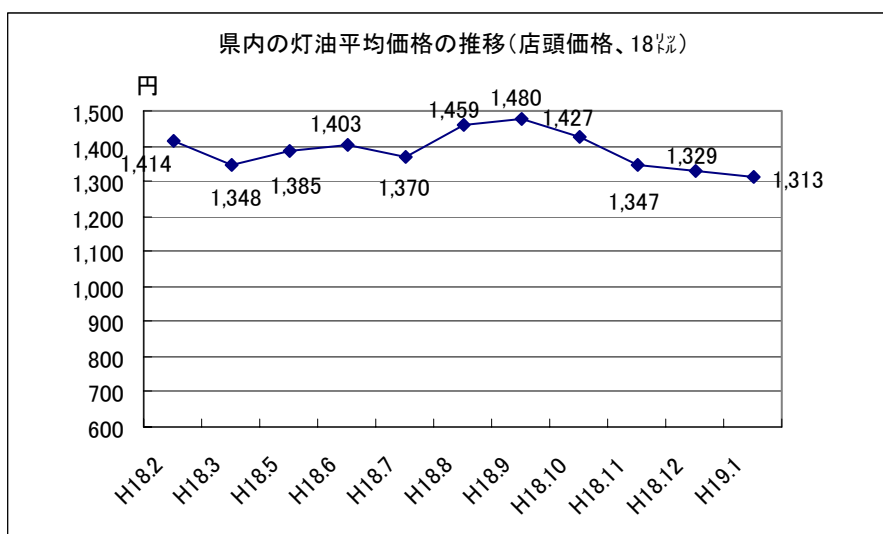


◎ 12月調査結果と比較すると、1月は3円値下がりし、元売各社が卸売価格を引き上げたにもかかわらず、給油所間の厳しい価格競争などにより、4ヶ月連続の値下がりとなった。

1月に入り、国際的な原油価格は大幅に下落しており、2月の卸売価格が引き下げられること可能性が高いことから、小売価格もさらに値下がりすることが予想されるが、産油国に減産の意向があり、原油価格が再び上昇するとの見通しもあることから、今後も引き続き石油製品の価格の推移を注視していく必要がある。

(3) 灯油価格

※ 一般店舗価格

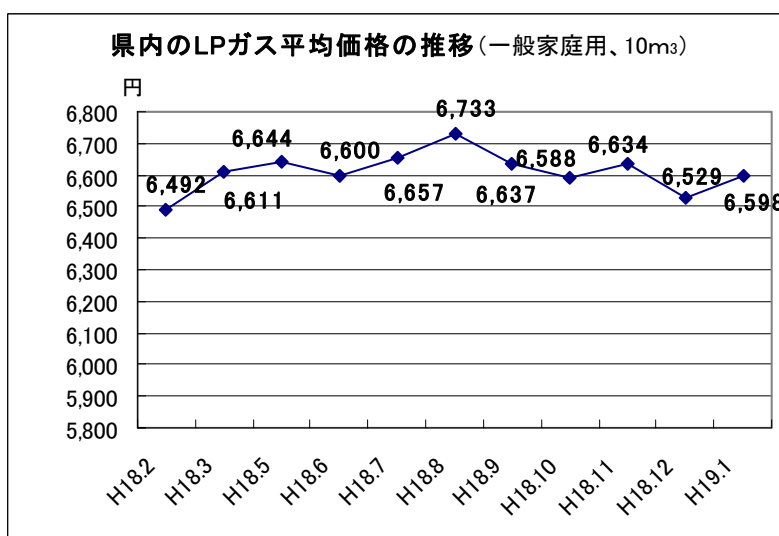


◎ 12月調査結果と比較すると、1月は、暖冬の影響で需要が低迷していることなどから、需要期にもかかわらず16円(1L当たり0.9円)値下がりした。

1月に入り、国際的な原油価格は大幅に下落しており、2月の卸売価格が引き下げられること可能性が高いことから、小売価格もさらに値下がりすることが予想されるが、産油国に減産の意向があり、原油価格が再び上昇するとの見通しもあることから、今後も引き続き石油製品の価格の推移を注視していく必要がある。

(4) LPガス価格

※ 一般店舗価格



◎ 12月調査結果と比較すると、1月は6,598円とほぼ横ばいとなり、昨年12月以降高水準での推移が続いている。日本にとって最大のLPガス供給国であるサウジアラビアの国営石油会社の船積み価格が依然として高水準で推移していることなどから、引き続き価格の推移を注視していく必要がある。